

教育目標	「学園は教える者と、教えられる者との、相互の信頼によって生かされる精神的な共同体である。」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	(1)「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 (2)「日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質培う。						
本年度重点目標	I 知育の推進 II 徳育の充実 III 健康な身体の育成 IV 豊かな生活の追及 V 家庭地域との連携 VI 生徒募集 VII 教育施設設備の活用						
重点目標	評価項目	具体的な方策または項目を評価する具体的な指標	平成28年度の実施状況	職員評価	職員からのコメント 62名	関係者評価	関係者からのコメント 6名
I 知育の推進	授業の充実と 難関大学進学に 向け啓発	① 国・数・英で先取学習実施(後期以降) ② 英語・数学等で反復学習実施(復習・演習) ③ 補習の実施 ④ 進路指導講演実施(高校部・専門家・OB等)	① 12月以降英数は、非検定教科書等使用し、数章分先取を行った。例年より少しペースを落とした。2月以降J3国語は古典に入り、橋渡しを行った。 ② 各学年全般の学力を考慮し、反復に時間を割いた。ここ数年同様の傾向。 ③ 数学を主に氏名補習を実施、月火木の部活動のない日の放課後30分以内を目安に指導した。例年プロジェクト体制を確保した。国社も活動的だった。 ④ 7月夏休み学習会期間中、進路課長による全学年対象の講演を実施した。大学進学的基本的な内容を本校の実績に即して説明し、啓発指導した。2月大学合格状況(私学・国立推薦)・今後の取り組みと心構えについて報告しながら、中高一貫のメリットを再確認した。合わせて啓発指導も行った。	A 29% B 54% C 1% D 16%	・ 着実に力を付けてきている印象がある。 ・ 中1の段階で授業へのきちんと姿勢をつくりたい。足並みに注意。 ・ 部活のない日の補習を総体的に取り組み、底上げを狙いたい。 ・ 高校部で各期とも内進生が上位層に入っている。核となる生徒を6年間の見通しを立てて指導したい。 ・ 英語への取り組みをさらに強化拡充したい。 ・ 英語理解、表現ともにレベルの高い内容にもついてきた。本校の特徴。 ・ 中高一貫のメリットで、じっくりと学習に取り組んでいる。教員と生徒の共通の意識、自覚のもと活動できている。 ・ 東京大学以外の大学の学園祭やオープンキャンパスに学校として参加するのも良いと思う。	A 60% B 34% C 0% D 0%	・ 中高一貫教育の特色や一貫生の良さを訴え続けたい。先輩の存在はやはり大きいものであり、後輩達がその実績に憧れる環境を維持、又は発展させながら、学校をより良くして欲しい。 ・ 良い流れはPRにもなる。 ・ 進路決定の際の経験や知見を共有する機会が多いほうが良い。 ・ 一貫教育の良さは早い時期からの取り組みである。 ・ 普通科進級生徒の啓発指導やケアもとても大事。
	外部模試等で 学力把握	① 学力推移調査受験(ベネッセテスト) 【ベネッセ偏差値60以上 5名/学年】 【ベネッセ偏差値50以上 20名/学年】 ② 実力確認テスト(明誠高校入試) J3・J2受験 【順位 50以上 5名/学年】 【順位300以上 10名/学年】 ③ 英検受験等 【J2終了時 3級50%以上/学年】 【J3終了時 準2級50%以上/学年】	① J3 10月② 70台- 0名 60台- 1名 50台- 12名 4月① " 0名 " 1名 " 10名 70台を出せなかった。50台後半は増え、40台が減少するなど若干全体の底上げとなり、意識の向上が見られた。60台数名増加の可能性はあった。 J2 2月③ 70台- 0名 60台- 3名 50台- 17名 10月② " 1名 " 0名 " 14名 4月① " 0名 " 1名 " 17名 60台数名増加の可能性あり。全体の動機付けや啓発指導の必要性あり。 英数原動力になった。全体の資質は比較的良好。リーダー層の育成が急務。 J1 2月③ 70台- 0名 60台- 6名 50台- 9名 10月② " 1名 " 2名 " 7名 4月① " 0名 " 1名 " 11名 数が原動力になった。60台数名増加の可能性あり。このリーダー層を特に育成し、環境づくりを行いたい。中下位生徒の伸びしろに留意し、ピンポイントで育成したい。 ② J3 50以内 3名 100以内 2名 300以内 1名 600 " 8名 850 " 5名 上位の層は薄いが土壇場で良く伸ばした。全体の伸びしろはまだまだあり、丁寧に長い目で育成することがなによりも大事である。 J2 50以内 1名 100以内 0名 300以内 1名 600 " 1名 850 " 1名 1000前後にランクが集中し、J2としては好結果となった。来年に期待感。 ③ J3(44名) 1月③ 2級- 0% 準2級- 23% 3級- 49% 10月② 2級- 0% 準2級- 9% 3級- 50% 6月① 2級- 0% 準2級- 9% 3級- 47% 数値的には厳しいが、よく挑戦したと胸を張れる。次回成果が出る頃。 J2(27名) 1月③ 2級- 4% 準2級- 11% 3級- 56% 10月② 2級- 4% 準2級- 4% 3級- 33% 6月① 2級- 4% 準2級- 4% 3級- 26% 2級・準2級取得者は無論、3級挑戦者も成果を出し始め、良い環境になってきた。見るべきところをきちんと見て(褒めて)、確実に育成していきたい。 J1(42名) 2級- 2% 準2級- 2% 3級- 2% 4級- 39% 5級- 48%	A 25% B 60% C 4% D 11%	・ 目標を実現するための方策・道筋が見えにくい。 ・ 取り組み目標や手立ての共有、共通認識を徹底したい。 ・ 偏差値40台、50台の指導如何が今後の課題になると感じる。 ・ 生徒間の格差が出ないようにしたい。 ・ 弱点の把握や動機付け向上のツールとしてさらに活用していきたい。 ・ 外部模試の重要性を中学時代から理解させ、学習習慣をきちんと身に付けさせたい。 ・ データを一人一人きちんと見て、長い目で寄り添う指導をしたい。 ・ 結果を成績会議の時だけでなく、その都度全職員回覧するなどして内進生の情報共有化を図り、全体で育てるという意識を向上させたい。	A 16% B 84% C 0% D 0%	・ 全体の活動の成果が見えにくいと感じる。情報の共有の方法についてしっかりと検討したい。見える化もおこないたい。 ・ 高校部と比較すると夏休みの学習フォロー体制について気になることがある。学習会や登校日のチェック体制以外に何か手立てを検討できるか。 ・ 取り組みの成功例等の共有や把握は具体的におこなわれているのか。 ・ 学習がハードだと聞く。詰め込みにならないように配慮を願う。 ・ 成果目標は欠かせませんが、高校生活に向けて学習習慣を身に付けていくことを常に意識してほしい。 ・ 生徒間の格差を小さくしていきたい。 ・ 弱点を克服できるよう1人1人に寄り添っていただきたいです。 ◇◇◇
生きる力や総合力を はぐくむ活動の設定	①活動後に、学習・体験の資料整理や展示・発表等の総合力育成の場を設定 ②実行委員会を組織した生徒活動 ③発達段階や興味を踏まえ、朝読書奨励 【10冊以上/年】	① 1年間の目標発表、学園祭・フィールドワーク・宿泊研修等の反省やまとめを掲示物作成を通して主体的に行い、分析力・考察力、また発信力・説得力高める機会とした。欠かせない活動として堅実に年間を通して実行された。 ② ①記述行事並びにスポーツデイ(年3回)実施の際、HR委員・専門委員を主に実行委員会を編成し、協調性・社会性や自己運営力の向上を狙った。生徒会・HR専門委員会が高校生主体に構成されており、全校主要行事において中学生のリーダーシップが発揮されにくい。そうした現状に対応する意味もある。 ③ 朝読書を日課として活動しているが、個人によって取り組みに差がある。娯楽的なものを読んでいる者もあり、傾向はあまり変わっていない。状況を改善するためにも、学年ごとに課題図書を選定するなど一定の指導が必要である。また、成果目標と行動目標を明確にさせ、読書量の進捗管理をおこなっていく必要がある。現状では目標は達成できそうにない。	A 36% B 42% C 10% D 12%	・ 様々な行事が行われており、活発的。集団として取り組むため総合力等は中1の時からついてくると感じる。 ・ 学校生活に主体性が感じられる。 ・ コミュニケーションを多くとる機会を増やし、世界をひろげたい。 ・ 漢字検定や文芸コンクールの積極参加で読書指導の成果を活かしてはどうか。 ・ 事後指導としての発表をさらに活発に行ってはどうか。 ・ 事後指導の作成物を1Fフロアなどに展示し、高校部の教員や生徒の目に触れる機会を増やしたい。 ・ 朝読書の目標がまだ不明瞭である。期間を定め同じ本を読み、感想を発表し合うなどして、国語力向上に繋がる活動を取り入れたらどうか。 ・ 校外学習の効果成果を高めるために、事前事後指導による目標や知識の補充が必要。 ・ 行事の担当と分業体制の明確化、生徒の負担への配慮など要する。 ・ 中学生による全体的な活動が見えにくい。	A 34% B 66% C 0% D 0%	・ 色々な活動は生徒それぞれの個性や人間性を発展させる機会になる。また同時に仲間の持ち味を理解し、より良い集団になっていくきっかけを増やしてくれる。良い集団で生活している生徒は保護者と良いコミュニケーションをとり、結果学校との信頼関係が深まり、周囲に良いPRともなる。 ・ 少人数で経験できるメリットをもっと掘り下げてはどうか。意識を停滞させてはいけないと思う。 ・ 読書によって耕された心は人生(進学・就職・・・)に影響を与えるものであることを踏まえ読書計画を策定し、明誠の中高一貫のメリットの一つに高めて欲しい。 ・ この分野の活動を充実させ、高校部につなげてほしい。	

	<p>日本文化理解と国際教養養成</p>	<p>①地域理解行事実施(修学旅行含む)【1回以上/年】 ②講演や交流会の実施研究 ③英会話授業の実施【週1回】 ④禅寺の活用 ⑤国際教養講話実施</p>	<p>① J1 4月御殿場宿泊研修、10月三保の松原・登呂遺跡、3月富士風穴・氷穴 J2 4月豊川稲荷宿泊研修、10月鶴見総持寺、3月豊岡ヤマハ J3 4月藤枝蓮花寺池公園・郷土博物館、10月関西修学旅行 J1で地元や富士への理解、J2で神仏やキャリアへの興味関心喚起、J3で地元再考、日本文化・古都／主要都市実地研修の機会とした。 ② J1ディスカバーパーク科学講演 J2赤キャリア講演、日本造船工業会 J3 4月藤枝蓮花寺池公園・郷土博物館、10月関西修学旅行 啓発指導実施。 ③ J1～J3 週1回の英会話TT授業及び年数回のスピーチ指導実施。スピーチに関しては目的の啓発と事後指導が足りなかった。支援不足を反省している。 ④ 学園原点のスピリットの一端を実地研修する機会としている。今年度はJ2が4月に可睡齋、10月オータムキャンプにおいて総持寺研修実施。活用法再検討。J2がオータムキャンプにおいて総持寺研修実施。 ⑤ (月)1限「道徳」において全体講話として実施。7月日本人と武士道、11月アフリカの現在 リビア、1月ヨーロッパの現在 トルコ、毎年実施。J2は海洋講演も実施。</p>	<p>A 42% B 42% C 7% D 9%</p>	<p>・ 様々な行事を企画し、興味関心、理解を深めることに役立っている。職員は大変だが熱心に指導していると思う。 ・ ワークショップに参加するような試みしてほしい。 ・ キャリア講演のような各分野の人々を招く機会は、動機付けに良い。 ・ 研修前後の活動の充実によりもう少し深く理解できるようになる。 ・ 目的をおさえ、各学年で早い段階で企画計画することで、点で終わらずに繋がりを意識して活動できるようにしたい。 ・ 内容がどの程度生徒の中に定着をしているかの検証が検証が必要かもしれない。 ・ 高校部の国際教養コースと連携した行事などがあっても良いのではないかと思う。</p>	<p>A 84% B 16% C 0% D 0%</p>	<p>・ 国際教養と日本文化／歴史理解の研修は意義深いと思う。取り組みを発展させてほしい。 ・ ICT教育の要素があっても良い。研究したらどうか。 ・ 文武両道の精神が反映されている活動だと思う。私立らしい。 ・ 常に工夫は必要だと思う。 ・ 企画の内容が的を得ていると思われる。</p>
<p>II 徳育の充実</p>	<p>基本的生活習慣の確立</p>	<p>①身だしなみと挨拶の指導 ②TPOに合わせたマナー・学習態度等を発達段階をふまえて指導 ③清掃指導の徹底</p>	<p>① 4月の集団道徳で代表生徒のロールプレイを活用し基本を示させ、理解や定着を狙った。全体講話時には月間の生活態度について注意指導を行い、助言や講評を実施。月例校風検査において個別に注意を促したり、努力を褒めた。比較的違反は少なく、生徒の意識や家庭の協力が良好といえる。挨拶に関しては、委員会等によるキャンペーンなどの実践機会が必要だと思う。 ② SHRIは無論、(月)1限「道徳」・(金)6限「特活」・隔週(土)1～3限「MD」時において、状況や必要に応じて学級指導や学年集会指導を適宜組み合わせ共通理解や方向づけをおこなった。安定的かつ定期的に、臨機応変に対応できるのが中学部の強みである。学年間の連携をもう少し増やし、学年ごとの到達目標を互いに認識し、活かしていけるようにしたい。 ③ 概ね取り組みは良好で清潔感が確保されている。細かい点において課題は残されている。現行の清掃分担は監督上改善点があり、次年度は対応策を工夫したい。ジャージ着用率は100%を目指したい。</p>	<p>A 38% B 53% C 3% D 6%</p>	<p>・ 身だしなみや挨拶は総じて良好である。 ・ 服装、挨拶などいかなる場面でも乱れない。 ・ 教員、生徒の中学全体で挨拶するなど明るい雰囲気を作っていくと良いと思う。 ・ 概ね各面協力して取り組んでいる。 ・ 上級生の悪い部分を真似たがる生徒もまれにいるが、指導は行き届くように努力している。 ・ 校門での礼の徹底を共通認識して園りたい。 ・ 教室の整備がきちんといき届くように呼びかけが必要。</p>	<p>A 34% B 66% C 0% D 0%</p>	<p>・ 油断が出ないよう共通認識をもって指導してほしい。 ・ 特にこの活動に力を注いでほしい。 ・ 真面目な生徒が多いと感じる。 ・ 身だしなみ、挨拶はきわめて良好である。 ◇◇◇</p>
	<p>特設道徳の充実と行動化</p>	<p>①本校理念の浸透、一斉道徳・講話実施 ②ボランティアの実施【1回以上/年】 ③自律性と社会性を培う場を設定し行動化を図る ④交通マナーの指導 ⑤道徳資料「中学生の道徳」活用 ⑥情報端末使用時の人権問題啓発指導 ⑦「いじめ」皆無の指導 【調査2回/年】</p>	<p>① 年間計画に基づき指導要領に沿った題目について、全体集会にて一斉講話を実施した。「道徳」の三分の一を活用。担当は、校長・副校長・中学教頭・中学部長。時宜と状況も考慮に入れて内容は熟考されている。計画とねらいの理解の徹底と生徒からのフィードバックの共有や実践の機会づくりを工夫していきたい。5月: 自他の尊重、6月: 友情、9月: 集団生活の向上、10月: 日本人としての自覚、12月: 人間の弱さの克服、2月: 感謝 ② 独自の取り組みについて検討したい。 ③ 4月出会の会、各学年行う春秋の主要宿泊研修、年3回のスポーツデイ、学園祭への取り組み、ダンスデイ、中学委員会や全体集会運営、三送会、各種講演会の司会、入試行事の応援など多岐に渡る行動機会がある。 ④ 4月出会の会にて校地内・学校周辺の注意点やマナーについて中3生が下級生に注意助言を行い、教員はそれをバックアップする。意識高揚効果あり。また、5月に交通安全教室を実施し、マジオ自動車学校の指導で意識を強化。今年度は目立った交通事故はなかった。 ⑤ 全体講話・学年集会講話や担任による道徳授業で基本を適宜確認した。 ⑥ 啓発注意指導を適宜HR/集会で実施。今年度は外部より中学行事の画像がアップされている旨の通報が2件あり、学年通信においても注意を促した。具体的な事実は確認できなかった。7月に携帯安全教室(NPOイーランチ)実施。端末機器紛失が1件あったことは諸点猛省し、必ず改善しなければならない。 ⑦ 小競り合いの段階での指導や調査時に判明した事実を即刻対応したことにより、大事に至ることがなかった。予防指導が機能したといえる。</p>	<p>A 34% B 52% C 3% D 11%</p>	<p>・ 道徳の教科化がある中全体の意識共有する意味でも一斉道徳講話は大切だと思う。 ・ 一斉道徳講話において、ねらいが不明瞭な時があり、事前事後の補充や啓発がもっと必要だと思う。 ・ 高校部の先生方に講話を依頼するのも良いかと思う。 ・ ボランティア活動をより多く取り組んでいく必要があると感じる。 ・ 外部の地域清掃ボランティアに参加してはどうか。 ・ 他者への思いやりの心を育成したい。 ・ ボランティア活動を年間スケジュールに入れるべき。 ・ 交通マナーの面では、中学生は校外で自転車のスピードが速い生徒が多い。学年が上がるにつれて落ち着き、比較的マナーが良くなっている。 ・ 中学生も三年間のうち1回は「誓いのことば」を述べる機会があっても良いと思う。 ・ 「道徳」の教科化に対して、評価の仕方等々準備を進めたい。 ・ 科目としての道徳の位置づけを、生徒の成長の中で確認したい。 ・ 徳育について、まだまだやらされている感があるのは否めない。</p>	<p>A 0% B 100% C 0% D 0%</p>	<p>・ 生命の尊重や命の大切さといった徳育項目については、確実に時間を費やし、生徒の心を耕してやってほしい。 ・ 明誠の徳育で培われたものはずっと役立つものである。数値化できるものではないが、大事なものであることには変わりはない。継続的にこの活動も発展させ、「生き方・生きる目的」をもった生徒を育成してほしい。 ・ 情緒教育はやはり大事だと思います。 ・ 自転車のスピードが速い。 ・ 生徒の主体性や実践力を伸ばしてほしいです。 ・ 校外での行動ギャップをどこまで埋められるか、たいへんな取り組みですが、努力工夫を継続してほしい。</p>

	<p>個を尊重する意識の醸成と態度の育成</p>	<p>①情報交換で個の把握 【月次定例会実施】 ②欠席・遅刻の減少 ③生活帳の熟読とコメント ④個別指導には、養護・カウンセラー・生徒課の活用 ⑤中学生生徒理解研修会 【全職員で7月に実施】</p>	<p>① 打合せ・定例会等で情報交換し、共通認識の上対応するよう努めた。 ② 各学年長欠や家庭の事情を抱える生徒等に対応を迫られ、動機付けに影響が出たと思う。しかし、今一度基本に立ち返り欠席・遅刻・早退をゼロに近づける意識と実践力を堅持していかなければならない。ここ数年同様の傾向有り。 ③ 担任の熟読、アドバイスを継続中。提出率は100%を目指したい。次年度からは月次の成果目標とし、各HRの提出率を把握、記録していきたい。 要注意内容の生徒については部長・教頭も確認し対応を適宜協議している。 ④ 特に生活が不規則不安定になりがちな生徒に関して、支援の活用を部長・教頭も含め協議し、家庭とコミュニケーションをとっている。 ⑤ 7月中高全体で実施し、中学部の各担任より生活・健康・学習・家庭の目立った点を中心に全体に報告、情報を共有し指導に資する体制づくりを目指している。全職員で6年かけて長所を伸ばしながら、十分に成長させてやりたい。</p>	<p>A 26% B 57% C 3% D 14%</p>	<p>・情報交換する場や話し合いの機会がもっと必要だと思う。 ・長欠生徒への対応、保護者への対応、生活記録ノートのチェック等々労力のいることだがよく対応していると思う。 ・決まった生徒の指導遅刻、遅刻が目立つ。短所の改善も必要。 ・生徒理解研修会は今後も必要だと思う。</p>	<p>A 16% B 84% C 0% D 0%</p>	<p>・中学生にとって生記録活ノートの役割は大きい。基本的な生活習慣の確立や自己の見つめ直しに役立ったり、保護者との意思疎通の場にもなる。記入内容や提出状況についてはよく注意しなければならない。 ・時に厳しく、時に寄り添いながら指導してほしい。 ・細かな指導を続けてほしい。 ・生徒理解研修が年1回では少くないか。</p>
<p>Ⅲ 健康な体の育成</p>	<p>団体行事の用意（団体行動や行事運営の基本も学習）</p>	<p>①スポーツデイ実施 【3回／年】 ②身心の持久力育成 【耐寒持久走会】 ③体育大会の活用 ④武道奨励（男子：柔道、女子：剣道） ⑤部活動奨励 ⑥ダンスデイ実施</p>	<p>① 年三回実施。二回目（12月）からJ2中心に運営している。中学全体で活動し、上下関係や社会性をスポーツと運営を通して学んだ。男女混成チームもあり、その意味においても集団育成に役立っている。参加率100%を目指したい。次年度からは成果目標として、毎回各HR・学年・全体の参加率を把握したい。 ② 今年度は天候が持ち、体調管理も良かったため予定通り実施した。グラウンドは人工芝張り替えのため、スタート・ゴール地点は市道上となった。栃山川周囲コース2周。予め市・警察・消防には許可申請や連絡を済ませた。 参加率： J11: 82%, J12: 90%, J21: 96%, J31: 93%, J32: 93%, 全体: 91% ③ 学級・学年・中学として集団育成・お互いの理解の好機。特に行進・長縄跳び・参加率については、成果目標を意識して取り組んでいきたい。 ④ 耐寒持久走会指導終了後武道にスイッチする。この点の段取りを工夫したい。武道は本校にとって大切な学習機会である。柔道部3名・剣道部3名寒稽古に参加。よく取り組むことができた。 ⑤ 加入率100%が理想。中高一貫の集団育成の好機であり、啓発指導も多少丁寧に行う必要があると思う。明誠生らしさを涵養する大切な活動。 部活加入率 J11: 95%, J12: 85%, J21: 89%, J31: 81%, J32: 83% ⑥ 11月にオープンキャンパス最終日（土）に実施。来校者数は、90名前後。今年度は表現のねらいについて最初のチームの紹介時にアピールを多少入れるよう予め授業の段階から指導した。明らかに意識が変わったチームも出てきた。曲の選定と表現のねらいのどちらが先か指導は容易ではないと思うが、段取り良く前期から事前の準備・指導をしていったほうがよいと思われる。</p>	<p>A 54% B 38% C 4% D 4%</p>	<p>・団体行事から多くを学んでいる様子が伺える。 ・生徒の主体性や自主性が養われつつあると思う。 ・上級生から学ぶ機会となっている。受け継ぐ姿勢が培われる。 ・生徒たちが笑顔で活動しており、その充実ぶりが伺える。 ・生徒たちのコミュニケーションが諸活動により促進される。 ・市内を中心とした大会で成果を出すなど、生徒たちの様々な可能性を引き出している。 ・部活動がもっと充実するとよい。発達段階を考えると不十分。 ・女子の入る部活動が少ない。 ・実施のための企画、練習時間の確保を図り、内容を充実させたい。</p>	<p>A 34% B 66% C 0% D 0%</p>	<p>・文武両道を目指し、身心共に強くなってほしい。 ・文武両道の精神が息づいていると思う。 ◇◇◇</p>
<p>Ⅳ 豊かな生活の追及</p>	<p>特別活動や課外活動の準備と充実</p>	<p>① キャリア教育の推進 【土曜に設定 10時間／年】 ② 文化祭に、学年・学級で参加 ③ フィールドワーク （創作活動・施設／史跡見学）【2回／年】 ④ 芸術鑑賞・修学旅行等の事前指導 ⑤ 行事や活動のまとめと展示 ⑥ 学級集団の向上（行事・授業等活用） ⑦ 県市町及び各種団体からの応募活動に参加 ⑧ 金曜6限「特別活動」の有効活用で集団育成</p>	<p>① さらに活動に計画性が出てくるとよい。月ごとの作業内容を具体的に学年の年間特別活動計画に記しておきたい。ペネッセのワーク・ファイル等活用。楽しく自己探求ができる手立てを工夫していくことが必要だと思う。 J1身近な職業調べ、J2フィールドワーク（企業見学）事前事後指導、J3自己の興味適性の分析と進路研究。 ② 模擬店・アトラクション（J3）、展示（J2・J1）等の活動に取り組んだ。案内活動や会場運営を当番で行い、終日活気を維持した。明誠生としての集団育成の好機。仲間や交流の良さを発見するきっかけになった。積み重ねの効果大。小学生の家庭の来校も目立ち、学校理解やアピールにも資した。 ③ 7月制作体験J1（漆塗り粉貝箸） J2（染め物） J3（陶芸手ひねり）、完全に定着化した。事前事後指導で改善の余地あり。主体的に取り組ませたい。 3月J1 富士風穴氷穴探訪 J2 豊岡ヤマハ見学 J3 卒業遠足（ラグーナ蒲郡）感じたり、体験した後に主体的に発表することも同等に大切である。 ④ 11月中国太陽雑技団鑑賞 雑技の起源や歴史について調べても興味深い。調べ学習の際、ねらいやアプローチにもう少し各班の個性や遊び心があっても良い。生涯に渡り歴史や文化への興味関心を高め続ける人間に育てたい。 ⑤ 学年が上がるにつれてまとめ上げる力は向上してくるが、男子の方がやや画一的になる傾向がある。まとめの際模倣に陥らないように注意させたい。行事目標に対する反省と各個の行動目標をきちんと反省させた上、表現や発表の要素においてもっと独自色を出すように指導してもよいと思う。 ⑥ 生徒による行事の企画運営の機会やそれらの指導については安定的に実施。今後はプレゼンやスピーチの機会を楽しみを取り入れながらどんどんおこない、生徒同士の触発や相互理解の度合いを上げていきたい。 ⑦ 私学読書コンクール参加。毎年複数名入賞する。事後の発表について、何らかの手立てを打ち、活動の成果を周知共有させたい。 ⑧ 自主運営の際直接上級生が下級生に範を示したり、指導したりする機会が増えるように持っていくとよいと思う。もっと学年間で共同活動をおこなってよい。</p>	<p>A 41% B 44% C 4% D 11%</p>	<p>・多様性があり充実。事前事後指導で中身を深めたい。 ・体験学習や校外学習が多く満足度は高いと思われる。 動と静の使い分けは大切。 ・キャリア教育に保護者の協力を仰いだらどうか。 ・キャリア教育は長期計画的に行いたい。 ・文化祭の取り組みを継続していきたい。 ・地域の人々と交流する行事や活動があるともっとよいと思う。 ・課外活動を行うことで他の人とコミュニケーションが取れたり、視野が拡がり、将来の自分に資することができる。 ・実施のための企画、準備等の時間の確保が必要である。そのため早めの提案をしていきたい。</p>	<p>A 50% B 50% C 0% D 0%</p>	<p>・この分野でICT教育の活用の可能性はどうか。 ・行事の工夫は常に必要である。</p>

V 家庭・地域との連携	対話の増加	① 面談の奨励(希望面談も用意) ② 保護者会実施【6月・2月で参加率100%】 ③ 行事文書配布や子供の現れの連絡(けが・病気含む) ④ 内進高校生の情報も含め生徒の良い点の発信	① 4月新年度個別面談①、7月夏休み三者面談、11月個別面談②、オープンキャンパス中希望面談、11月～2月S1個別面談進級指導(J3適宜)等実施。内進中学生の希望面談率は比較的高い。 ② 6月地区別懇談会(交通安全対策・夏の準備)、2月学級/学年懇談会(進級準備)。参加率についてはおよそ達成。 ③ 各行事2週間前に通知を配布した。生活記録帳の未提出が目立ったり、内容が気になる場合、生徒本人や保護者とコミュニケーションをとり、また、教員間で対策を練るなどして事態に対応した。 ④ 7月と2月に全学年対象に進路講演会にて進路の基本知識や内進生の現状について説明してもらい、将来の自分の現実的なイメージを持ちやすくなるよう啓発指導した。2月にはJ3対象で内進S2生徒に進級講演してもらい啓発指導、さらに3月には卒業内進S3生徒に進路講演してもらい、高校時代の学校生活・学習方法・悩みへの対処法などについて説明してもらい進級準備とした。年間を通して内進生の全般の情報発信については、本校内製の新聞等頼みとなった点は否めない。反省事項として発信の手立てと時期を検討したい。	A 39% B 48% C 2% D 11%	・コミュニケーションが充実していると思う。 ・1人1人に目が行き届く良い環境だと思う。 ・担任の先生方の親身ぶりがよく伝わってくる。 ・中学部からの情報をさらに職員全体で有効に活用する手立てを柔軟に考えていきたい。 ・諸手立ては、計画通り実施できていると思う。	A 50% B 50% C 0% D 0%	・地域との連携にもう少し意識し、注力したらどうか。 ・先生と保護者・生徒のコミュニケーションがしっかりしていると感じる。大変だと思うが継続してより良い信頼関係をつくってほしいと思う。
	広報活動の充実	① 学年通信の発行【8回以上/年】 ② 子供安全連絡網の活用 ③ オープンキャンパスでのアンケート実施【参加率2回で100%】 ④ ホームページの充実と行事や発表会の開放	① 入学準備号を含め年間8回発行。カレンダーに記念日を入れ関心が湧きやすくなるようにした。また、1面に写真を必ず入れ表現力・訴求力を上げた。最終面におよそ時系列に写真を掲載し、学校生活の足跡を振り返りながら紹介した。 ② 基本的に高校部と共通で活用した。中学行事の日時変更等の連絡にも迅速に使えるようになると良いと思う。 ③ アンケート内では好意的な意見が中心であった。参加率についてはおよそ達成。 ④ 科学講座、キャリア講演、ダンスデイなどの発表会を在校生だけではなく、学校見学の小学生やその保護者にも開放した。科学系に人気があり、アピールあり。ホームページの更新については課題が残る。	A 42% B 44% C 4% D 8%	・学年通信の取り組みは何かと有効である。 ・十分に行われている。 ・多くの受験生が訪れた今年、効果は抜群だった。 ・本年度はたいへん充実していた。 ・募集につながる広報をさらに工夫する必要がある。 ・明誠の行事を小学生に知ってもらう手立てを全体で考えたい。 ・中学部、高校部それぞれHPの運用係を1人ずつほしい。	A 50% B 50% C 0% D 0%	・情報発信の方法を工夫してはどうか。やれることはある。 ・小学生に情報を到達させる手立てを研究してほしい。 ◇◇◇
VI 生徒募集	渉外活動の充実	① 説明会や講習会・オープンテスト等実施 ② 小学校や塾への渉外活動 ③ 各種行事の活用(文化祭、吹奏楽部定演・ミニコンサート等) ④ リーフレット作成	① 説明会 6/18 -37世帯, 7/2 -17世帯, 7/30 -34世帯, 10/1 -32世帯, 11/5 -67世帯, 7/10掛川 -0・静岡 -1, 名簿世帯数:150 前年比150% 講習会 9月 -54名, 11月 -60名 前年比150% オープン 9月 -56名+11名家庭受験, 11月 -79名 前年比145% 講習会・オープンDMと併で、勧誘とバックアップを実施。リーフレットによる事前申し込みも積極的に促進し、進捗を分析しながら補強活動を実施した 野球練習会 8月 79名 4・5年体験学習会 10/22 -33, 2/26 -38 入試 一次 70 :単56 併14 二次 1 :単1 前年比170% ② 小学校訪問80校以上 前年比160% 5月(学園祭前)・7月(夏面談前)・2月(新年度前)の3回を基本とし、臨機応変にバックアップ訪問 志穂・小笠・静岡地区の有名個人塾を訪問。学校案内・入試行事リーフレット・学園祭/体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内等々配布。 ③ 6月学園祭中学展示・アトラクション(生徒案内付)と説明会①の同日実施。吹奏楽部の6月定演等成果発表機会を募集活動にも活用、方法を発展させたい。7月中学天文学講演・10月J1ディスカバリー科学講座・7月J2日赤出前講座等小学生に対してもオープンにした。また、4・5年向けの10月英語体験学習会・説明会(ハロウィン)、2月理科体験学習会説明会を実施。学校への期待値・好感度やロイヤリティ・ステータスアップを狙った。 ④ 入試行事年間予定に加えて、講習会・オープンテスト・体験学習会、通学補助用のものを先回りして適時送付配布した。また、掲示用のA3版体験学習用自家製ポスターを校外で掲示推進した。説明会ではなく、体験学習用広報なら、公立機関に掲示が可能で、広報推進できる。	A 52% B 39% C 5% D 4%	・渉外活動が活発になった。企画運営が大変だと思うが私学を検討している保護者にはうれしい企画。 ・イベントに足を運んでもらえるよう、熱心に活動できたと思う。 ・どの行事も参加者が増え、関心が高まったと思う。 ・学校訪問や塾訪問を手厚く行ったほうがより多くの小学生が来校することを実感した。 ・行事の日時や運営方法については、もう少し考えてほしい。 ・文化祭のクーポン付き招待券等があると良いと思う。 ・小学生が集まる活動の充実。 ・中高一貫のアピールができる活動、学習の充実。 ・広い範囲に細かに情報が届く手立てがさらに必要。	A 66% B 34% C 0% D 0%	・保護者にこの活動をアピールするコーナーがあるといい。 ・優秀な生徒の獲得を願う。 ・中高一貫のメリットをもっと目に見せてほしい。 ・数値に満足しない。 ・アピールの強化は常に検討していきたい。
VII 教育施設・設備の活用	快適な教育環境の実現	① 教室内外整理整頓、施錠管理、電源管理の徹底 ② 駐車場管理 ③ 設備・備品の保全 ④ 防災教育と訓練の実施【2回/年】	① 4月全体集會にて、ロッカー使用方法・駐輪場の使い方等を実演指導し、啓発と意識高揚を狙った。例年通り一定の成果確保につながった。施錠や電源管理については、SHR・放課後巡回時に注意啓発指導実施。部内巡回ノート記録継続中(放課後輪番で3段階) ② 登校時担任が輪番で巡回し、施錠確認・駐輪方法・車両整備状況などについて確認指導した。概ね状況は良い。駐輪方法は上級生に改善点あり。 ③ HR・集会時啓発指導を行い、また、放課後巡回時適宜啓発注意とチェックを行った。教室内の南側壁(低層部分)の破損や、雑巾干し、T字ほうきの破損についてはおおいに改善点あり。 ④ 4月全校避難訓練実施。8分でグランド整列点呼報告完了。厳粛に行動できた。9月教室内避難訓練及び防災教育実施。ワークシート等に取り組んだ。10月J3修学旅行時、神戸震災博物館にて防災教育実施。	A 23% B 65% C 8% D 4%	・教室内の整理は良いと思う。 ・清掃手順や道具の使い方などの啓発指導が必要だと思う。 ・施設や備品を大切に利用する意識、公共意識がまだ足りない。 ・校舎内の破損箇所が目立ってきた。 ・破損箇所の修繕の対応を早くおこないたい。 ・洋式トイレがもう少し必要だと思う。 ・防災教育について改善の余地あり。 ・津波避難に絞った訓練もやはり必要だと思う。	A 0% B 100% C 0% D 0%	・何はともあれ修繕は早く行うべきだと思う。安全管理や生徒達の学校生活のモチベーションを損なうことがないように十分留意してほしい。 ・避難訓練の質的向上や強化の手立ては何かあるはず。